

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

# Pokémon the Doujinshi XY



## 襲撃フレア団！囚われのサトシ！！

これは個人の手による二次創作です。ポケモン、任天堂、ゲームフリーク等関係各社とは一切関係ありません。  
この本の18歳未満の方の購入を一切禁止します。  
また、同人誌・二次創作に理解のない方、未成年の方・ポケモン関係者の目に触れないようお取り扱いください。

ポケモンリーグミアレ大会の閉会式の最中、異常事態が発生した。異常の原因を探るべく、また、マノン救出のためサトシとアランは共に行動するのであった。…その途中

はい、注目！

私のお話聞いてくれるう？

お前は！  
プニちゃんを狙ってた…！

やっただあゝ  
覚えてたあ？

でも今日ゲットしたいのはあ、  
君、なのよねゝ

オレ…？



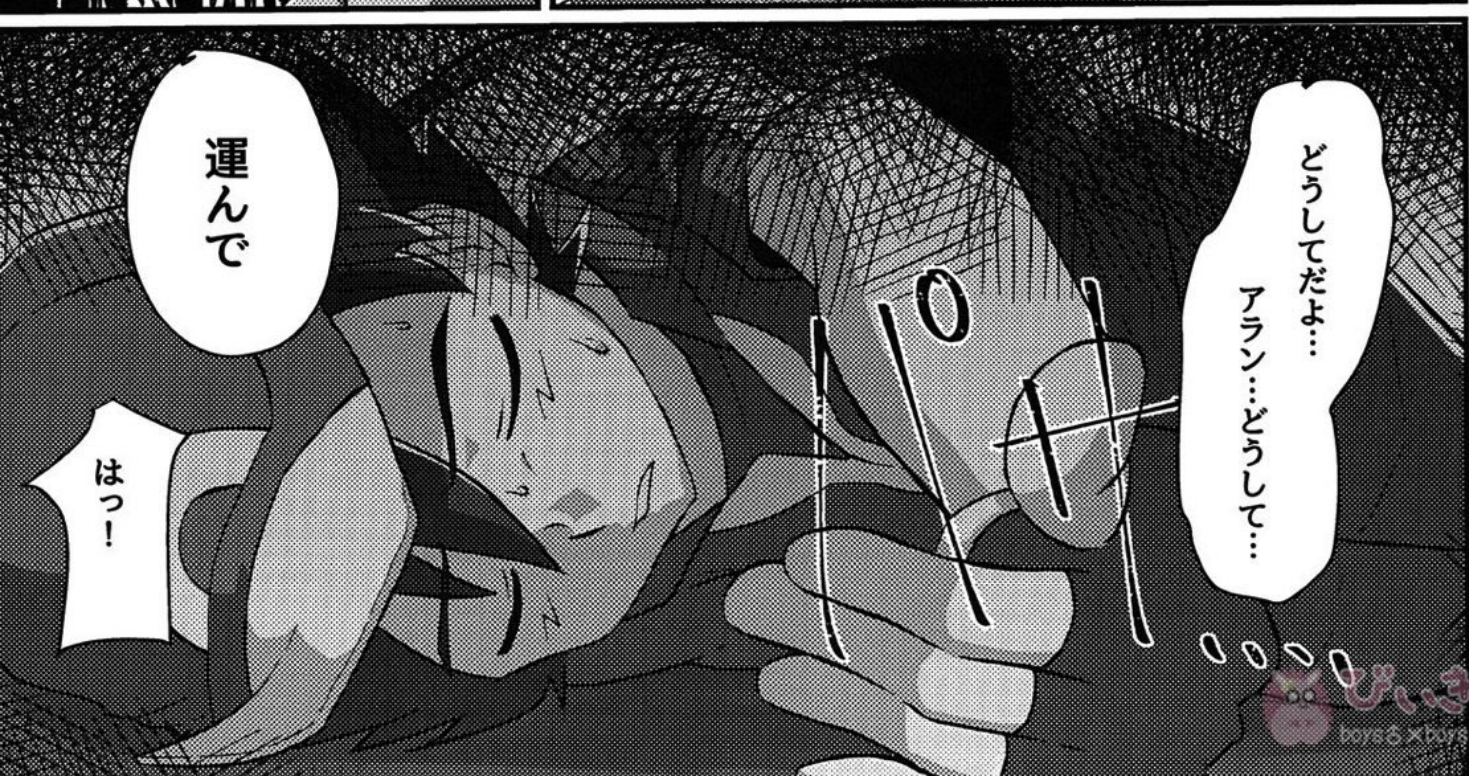


ドラピオン！  
あやしいひかり！



ぐあつ！

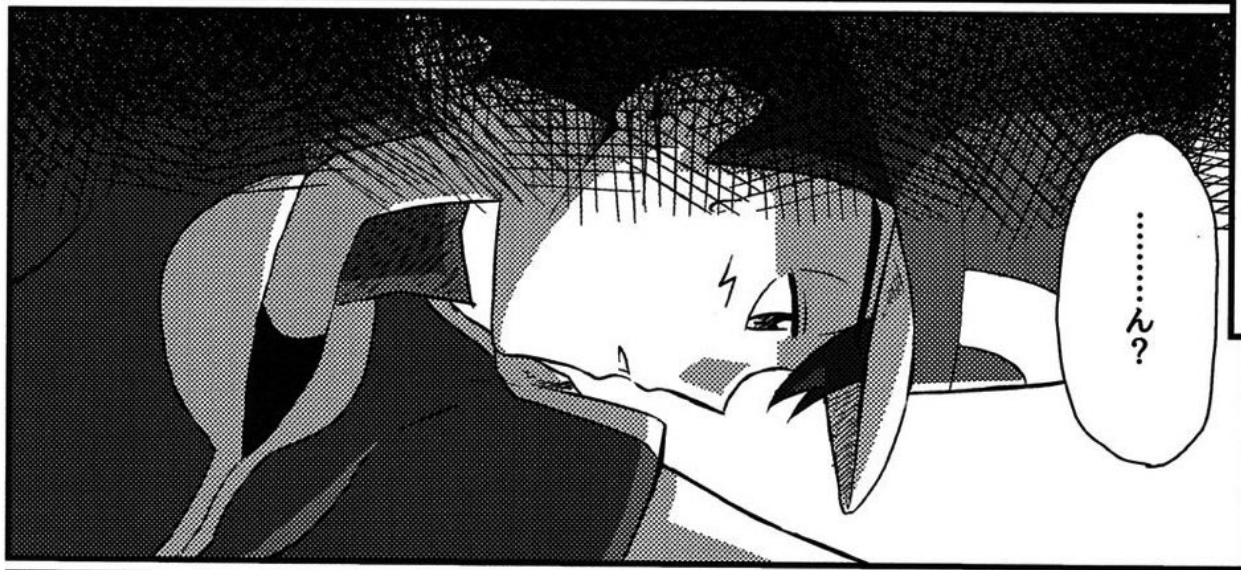
ピカあつ！



運んで

どうしてだよ…  
アラン…どうして…

はっ！



何だ？さっきからフラダリさんは何を言っているんだ？

サトシ君、キズナ現象を私の世界に利用させてもらおうよ！

石もないのにキズナだけでその強い力を得る…

初めて見たとき私は嬉しかったんだ…

まだまだポケモンには、無限の可能性があるので、思い知らされた…！！

私もその力が欲しい！

最初からアランを騙していたのか…？

その通りだよ！アランの、ハリマロンのため、マノンのためという純粋な思いは、実に尊いものだ…！！

フラダリさ…フラダリ…お前…！！

お前なんかには、絆エネルギーを渡してたまるか！

ハハハ、そう思うと思っていたよ、でもね、君は二つ勘違いをしているようだ

私はね、絆エネルギーもそうだが、なによりも君自身を一番支配したいのだよ

サトシ君

とは言ってもね、君は痛みでは支配できないおそらく支配する前に身体が先に壊れてしまうだろう

だから私は、

快楽で君を支配しようと考えた

サトシ君は十歳だしどうせまだ精通は来ていないのだろう？ だったら、性の快楽というものはきつと味わったことがなさそうだ

お前が何をして来ようがオレは絶対に負けない……！ 絆エネルギーは、渡さない！

オレに触ん……

なっ！？

いい心意気だ……さて、それがいつまで持つか見ものだな



なんだ...?  
何が起こったんだ...?

チュー? 男同士で...?

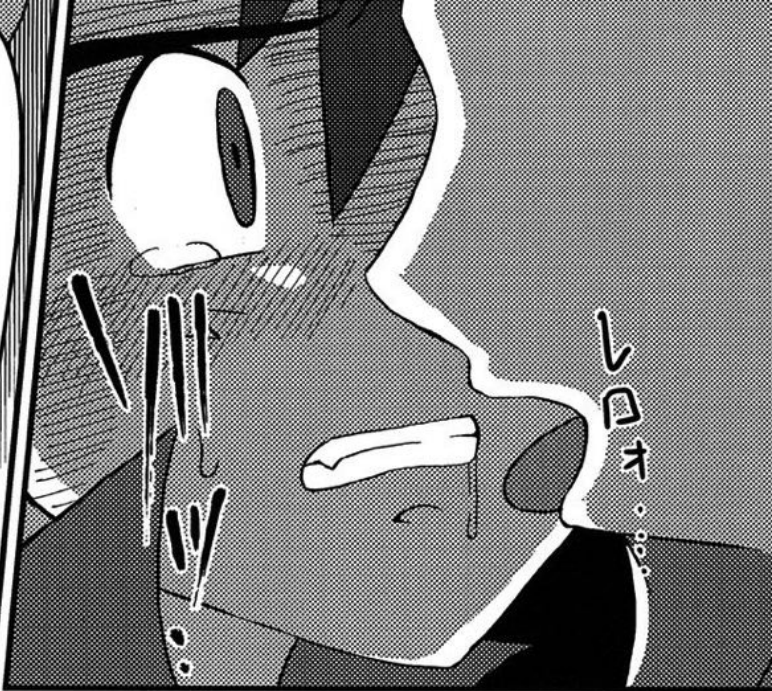
き、気持ち悪い.....!

おっおっおっ.....!





サトシくんに  
大人のキスを教えてあげようと  
思ったのだからね



唇を奪われて  
泣くほどシヨツクだったのかね?



やめろよ! 離せよ……!



…しかしその前に  
私の舌が  
噛み切れられそうだな

…冗談だ



なら、降伏するまで  
ずっとキス  
してみようか



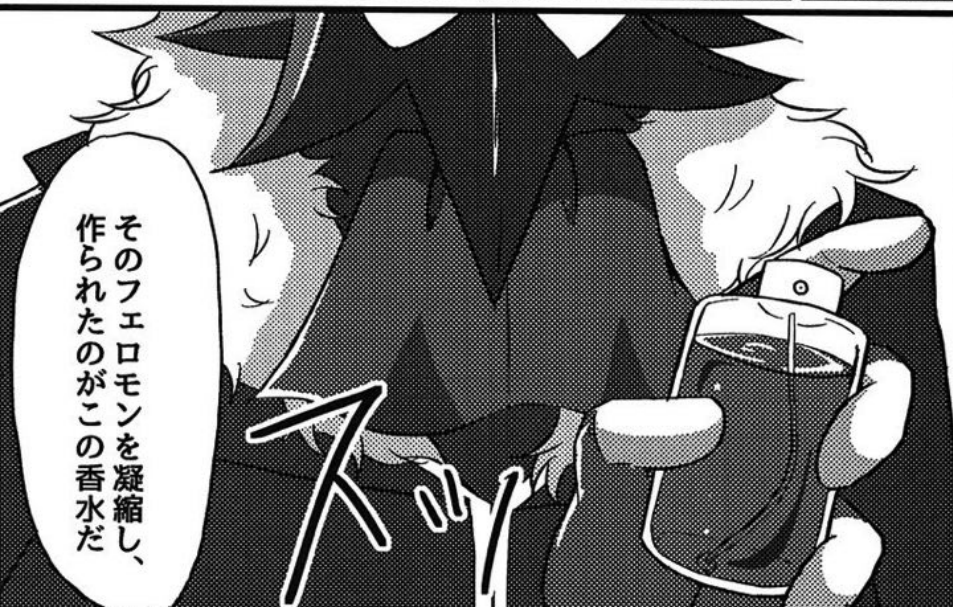
そう  
怖い顔しないでくれ



アローラ地方というところに  
生息するエンニュート  
というポケモンなんだが、  
そいつが出す毒ガスには  
特殊なフェロモンが混じって  
いてね、  
それも何故か♂にしか効かないんだ…



さて、大人の快楽を  
味わったことがない  
サトシくんのために  
感度を高める  
薬を仕入れたんだ



そのフェロモンを凝縮し、  
作られたのがこの香水だ



アローラ地方…？  
エンニュート…？  
フェロモン…？







そうだ仲間…!!  
シトロンは? セレナは?  
ユリーカは? アランは?  
みんなどうしてるんだ?



まあ、できないか、  
あんなにたくさん  
仲間がいたらね…

サトシ君はオナニーは  
したことがあるかね?

は、ん、  
は、ん



おっと、仲間のことを  
考えている場合ではないぞサトシ君  
君はこれから私のモノになるのだからね

年齢的にもオナニーのやり方くらい、  
そろそろ知っていていい頃だろう



なんだはこの感じ…  
身体中がぞわぞわして…  
底から這いあがってくる感じ…



気持ちがいいだろう？  
オナニーとはね、  
こうやって優しく  
自分の男性器を  
慰めることを言うんだ



やめろ…  
ひっ！？



そんなことない…！

こんなことで、  
負けてたまるか…！



感情の昂ぶりを感ずるだろう？

私が少し触っただけで、  
君の身体は快楽を求めて…  
振らせているからね…

…どうだ、背筋を駆け巡る  
電気のような快感と  
股間から込み上げる  
快楽の波を感じるだろうか？  
今まで味わったことのない  
大人の悦びはどうかね？



絆パワーは…

渡さない…

ほお…

絶対に…渡すもんか…  
お前なんか…ツ…  
アランを騙して…  
マノンを悲しませて、  
世界をめちやくちやにした…  
お前なんか…ツ！



むしろそうでないと  
面白くないからね…  
フフフ…

くっ!



サトシ君は、あくまでも  
私に従わないつもりだね…  
フフフ…そうだろうと思ってたよ…

なんだと…



いきなりなんだ…?



フタコ

今日初めて性的快感を得たんだ…  
もちろん知らないだろうから  
教えてあげよう



ところで、  
サトシ君は、

男性器はどこから刺激を受けて  
快感が生まれているか知っているかね?





男性はね、前立腺というところで  
性的快感を得るんだ

そしてそれは、  
ここにある



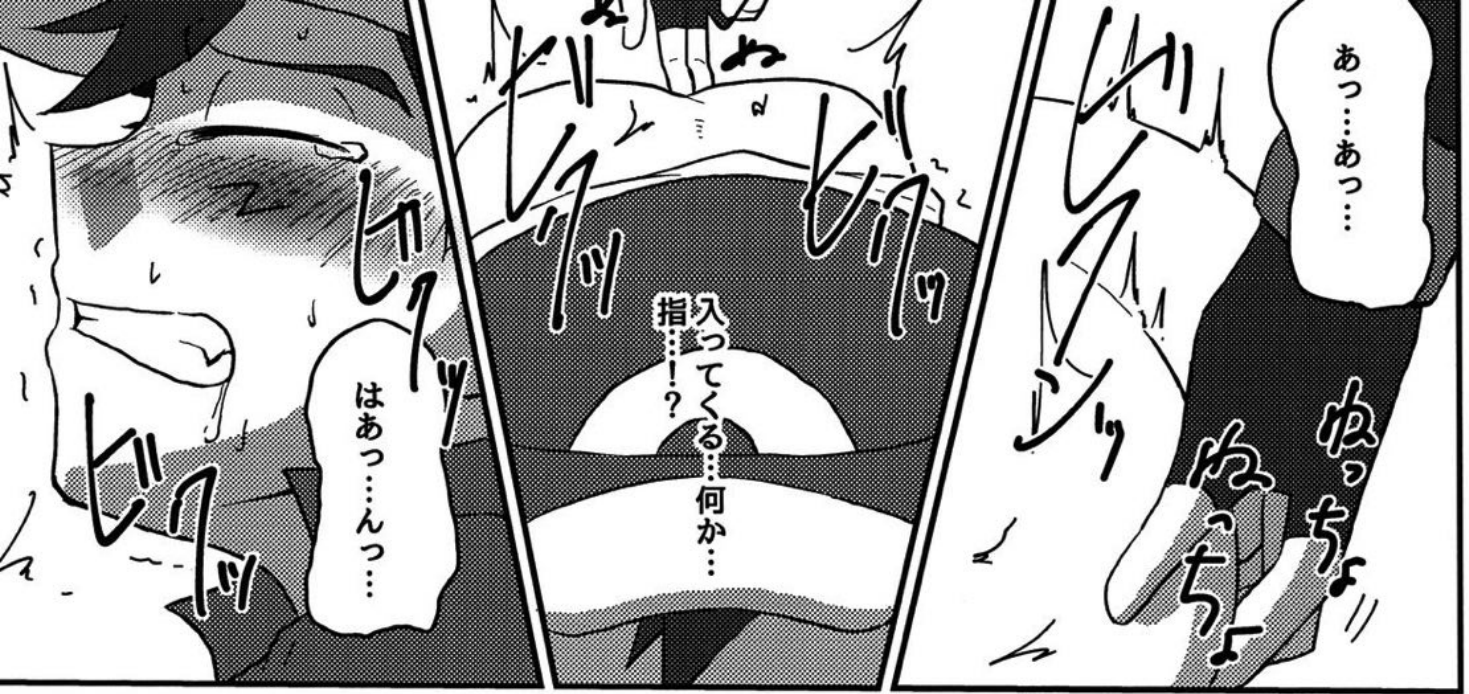
前立腺を直接刺激すると  
どうなると思うかね？

最初は慣れず痛いだろうから、  
このガマゲロゲの粘液で  
アナルをほぐすんだ

ガマゲロゲの粘液には  
神経を麻痺させる作用があるんだ  
潤滑剤になるだけではなく、  
アナルを弄る際には麻酔にもなる

いったい何を  
するつもりなんだ…？

やめ…触んな…！



あっ…あっ…

はあっ…んっ…

入ってくる…何か…  
指…!?

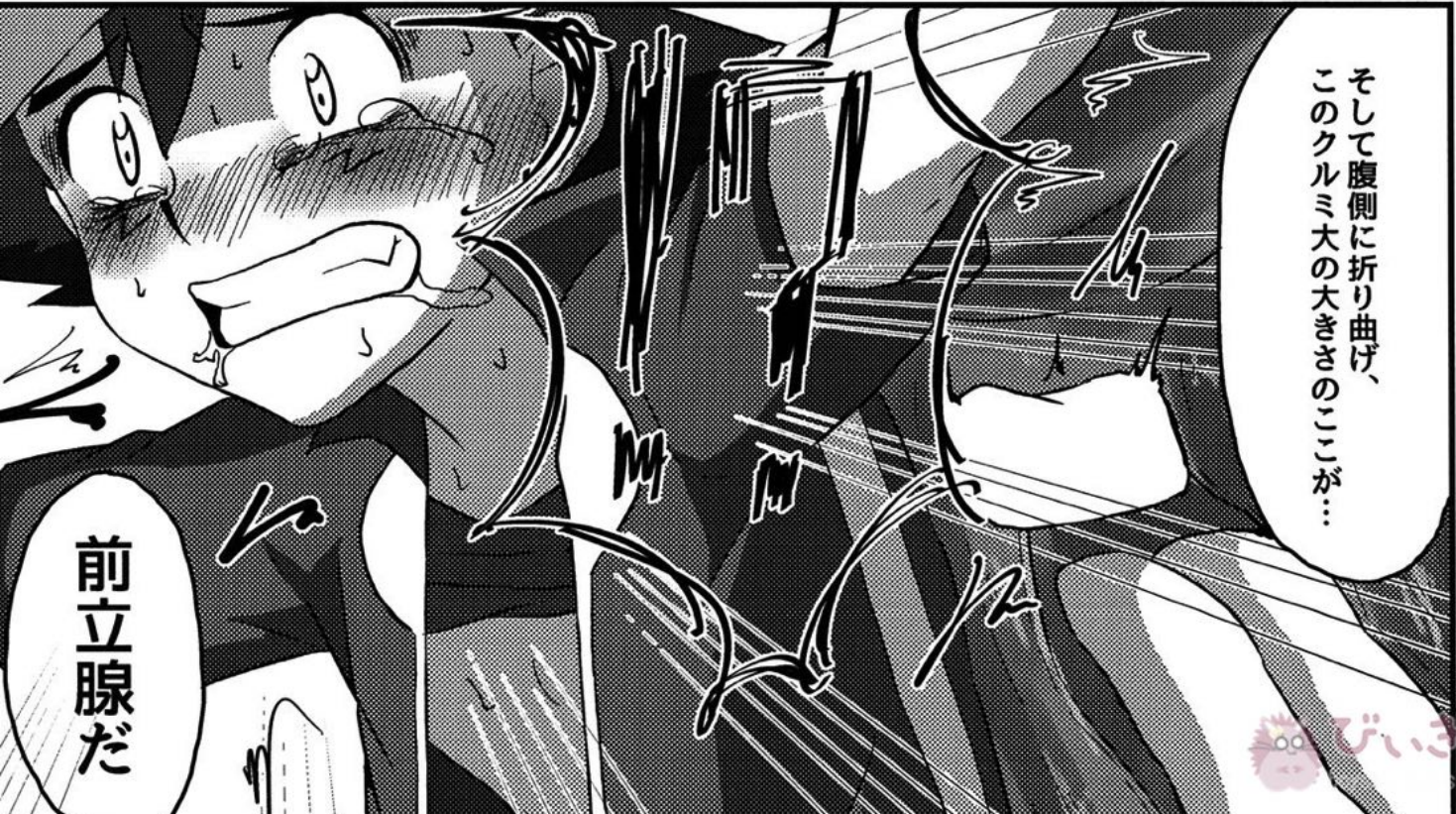
ぬっ  
ぬっ  
ぬっ



通常、前立腺は中指の第二関節付近にあると言われていて、まずは小指から慣らし、根元まで挿入れる

うあ…あっ…

そして徐々に慣らししていき…  
中指を挿入する…



そして腹側に折り曲げ、このクルミ大の大きさのここが…

前立腺だ



あー…はー…うー…

まあ、こんなところだろう



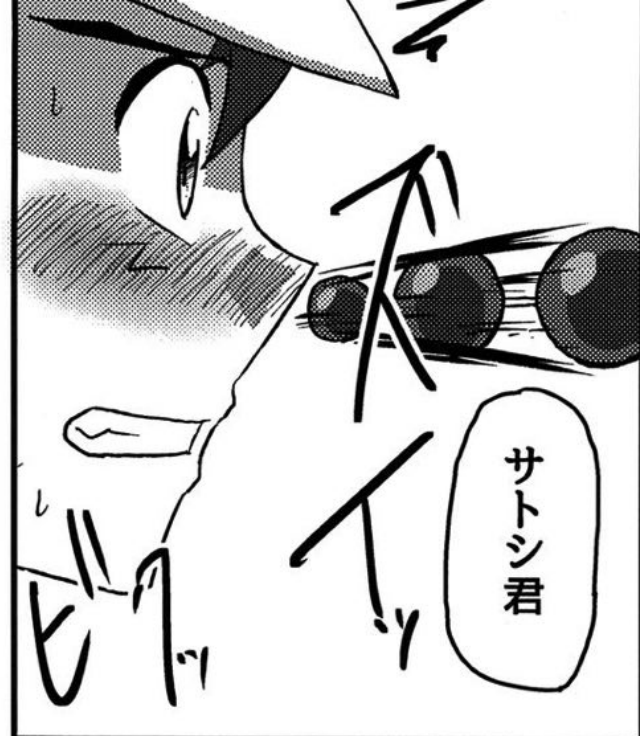
絶対…負ける…もんか…  
絶対…オレは…  
オレはあ…ツ!

どうかね？  
言うことを聞く気には…



やはりな…では、  
これではどうかかな？

ほお



やだ...やめ...やめろ...  
やめろおとおおお...

ほう、人間に使うと体力が削られる代わりに  
全身の神経が過敏になり、  
副交感神経優位と交感神経優位が  
たちまち入れ替わり、  
感度が上がるのか、予想通りだな

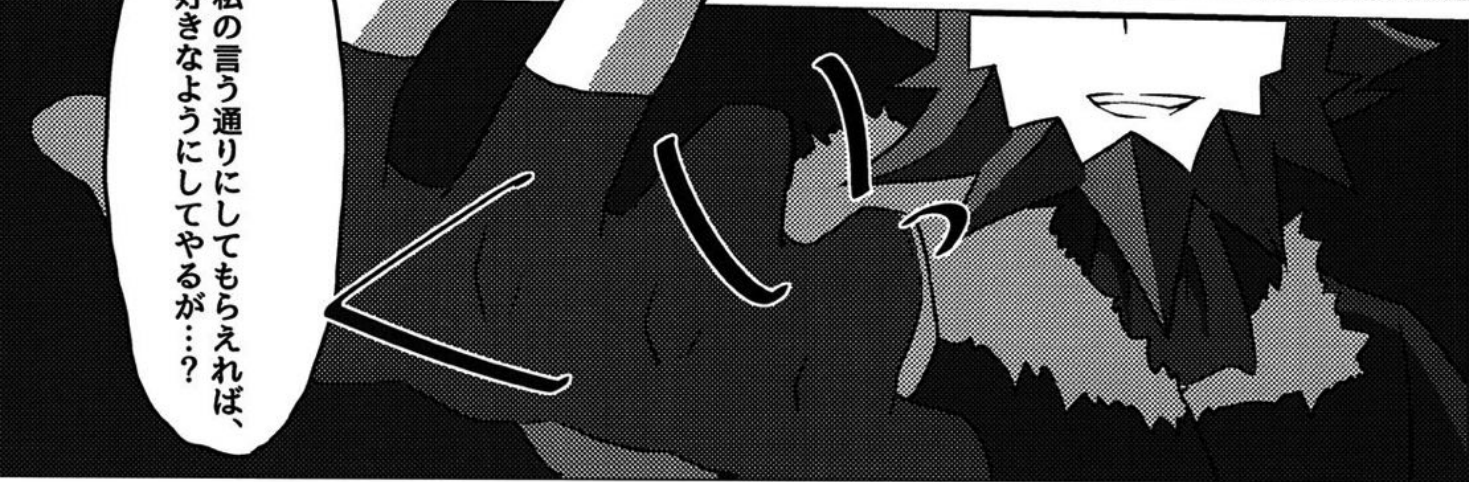
なにか...熱いものがこみ上げてくる...  
なんだよこの感覚! 気持ちいい!

はっ...はっ...はっ...



サトシ君、全身を迸る快楽の波に身を委ねたいのだろうか？  
しかしそれはできない相談だ

私の言う通りにしてもらえば、好きなようにしてやるが…？



誰が…お前の…  
いうことなんか…！

そうか、ならば仕方がないな…

1時間後

うあああアツッ……  
ああああああああああ……！……！……！

サトシ君、どうだ、  
言うことを聞く気だ……

負け……ない……  
負けるもん……か……

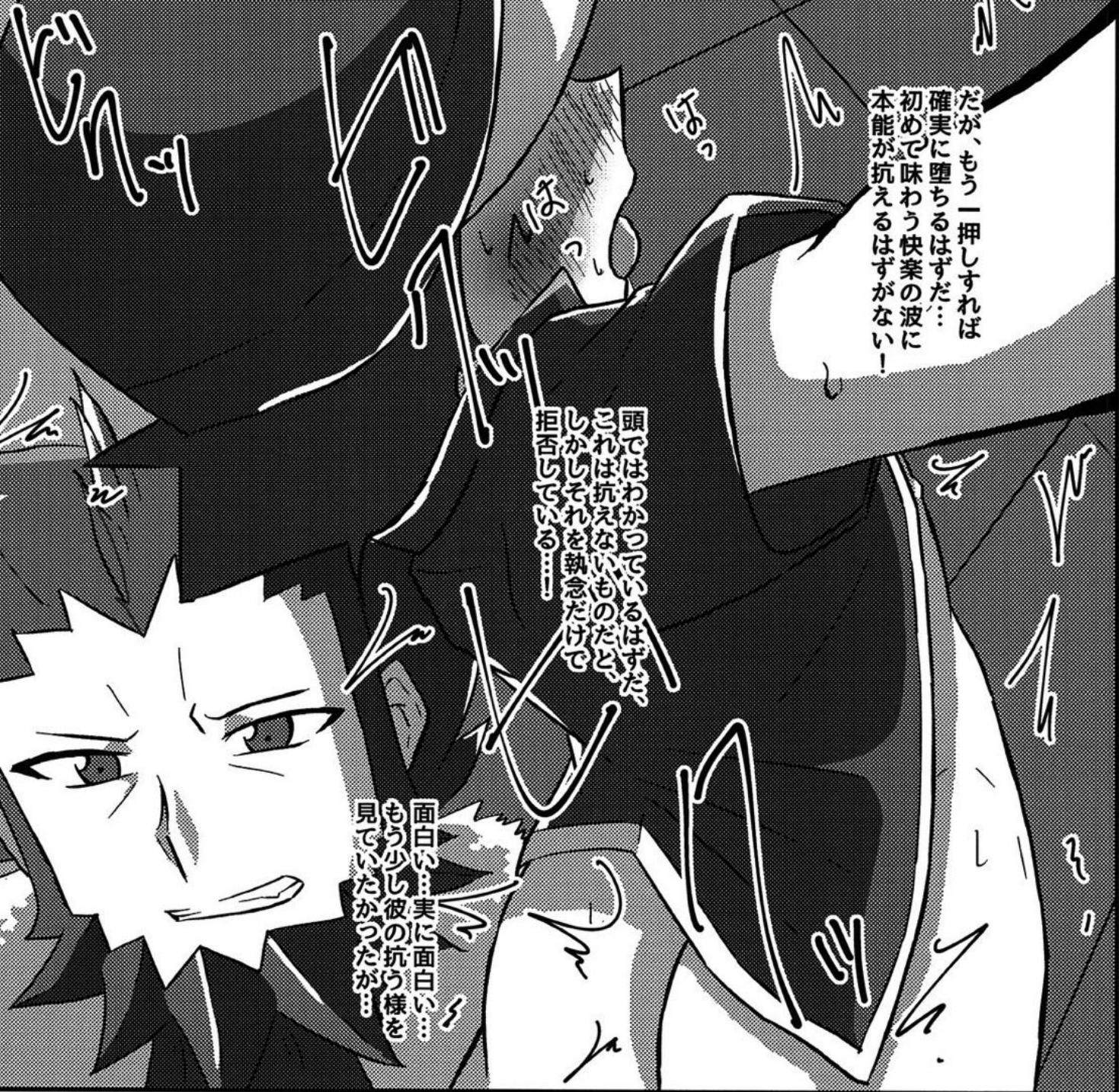
気持ちいいのに……  
ムズムズする……最後まで  
このままじゃない、  
何か大きな波が来るのに……  
邪魔されてる……

また止まって……

気持ちよくなりたい……  
ムズムズする……  
気持ち……よく……  
ダメだ……！  
アランやピカチュウや、  
みんなが……待って……！

うーむ、身体は絶頂を求めようと  
動きかけているが、もはや執念だけで  
拒否している様子だな……

はーっ



だが、もう一押しすれば  
確実に堕ちるはずだ…  
初めて味わう快楽の波に  
本能が抗えるはずがない！

頭ではわかってはいるはずだ  
これは抗えないものだど  
しかしそれを執念だけで  
拒否している…！

面白い…実に面白い…  
もう少し彼の抗う様を  
見ていたかったが…！



もう時間がないようだ





ならば仕方がない  
ゆけつ、ドンカラス

くろいまなざし

ツ!?



これでもう逃げられない  
快樂の波に抗うことは  
できないはずだ

素直になりたまえサトシ君  
さあ、どうしてほしい?

嫌だ嫌だ...  
やめろそんなオレはッ...!

あ...

オレは…アランを、マノンを、  
みんなを、悲しませて、  
世界をめちゃくちゃにした  
こんな奴に…

この…ママ…  
続けて…

負けるわけにはいかないんだ…!!!!

くだ…さい…

それが君の本心だよ、  
本能に抗うことはできない

10分後

うあ…あ…あつ…

人生で初めての絶頂は  
どうだったかね？  
これでサトシ君もひとつ  
大人になったな

ショックで頭も回らないか、  
まあ仕方がない、  
十歳にしては大した忍耐力だ

サトシ君、  
ようこそフラダリラボへ  
これからよろしく

3日後

さて、サトシ君、  
昨日教えた通り  
にしてもらん

.....

唾液をよく絡ませてカリの部分を丁寧に  
そして裏筋もしっかりとね  
もちろん、右手で竿を扱きながらだ……

そうだ、その調子だ……  
物覚えは悪いが  
運動神経はあるからな、  
身体で覚えるのが  
一番身になる

こっちの乱暴な方が  
興奮するんじゃないか？

だひと君は

カリニ



ハアツハアツ  
少し歯が当たるがそれがちょうどいい！  
君は周りとは比べると大きく口が開く方だが  
口の中はやはり子ども！  
とても気持ちいいよ！

やはり君を選んで  
正解だった！



ハアツ  
ハアツ！  
出すよ  
サトシ君！

しっかりと  
口で受け止め  
たまえ！

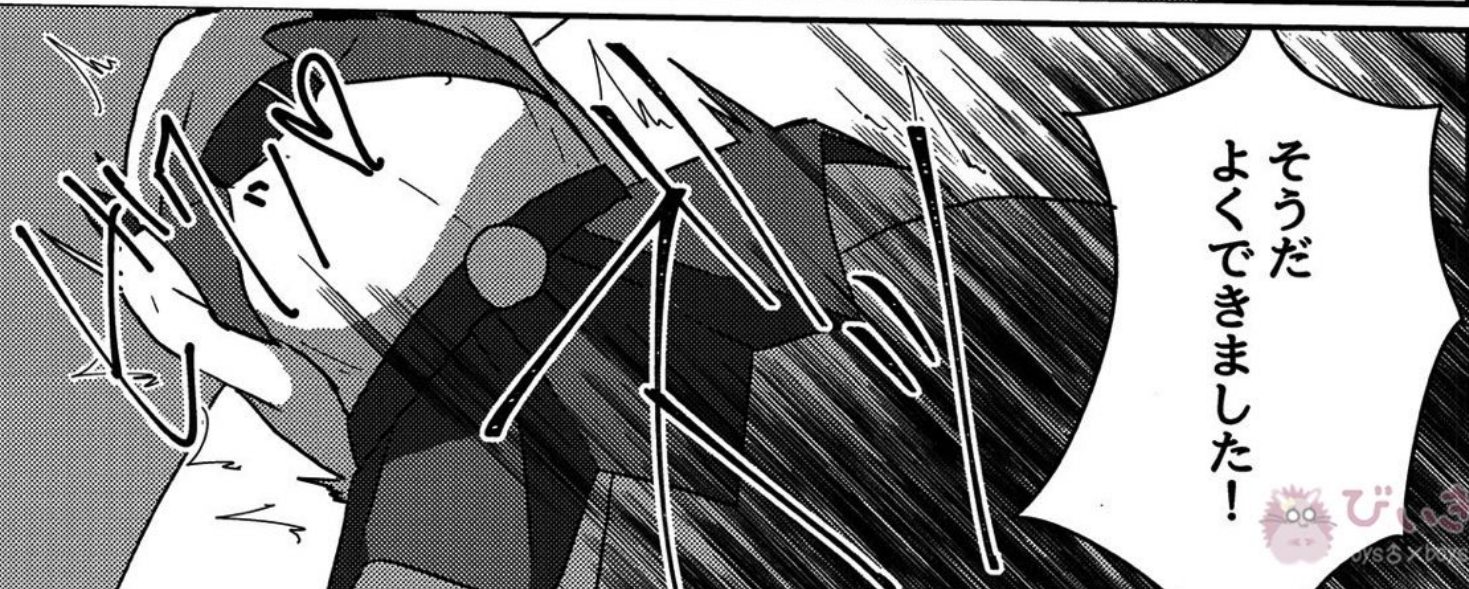
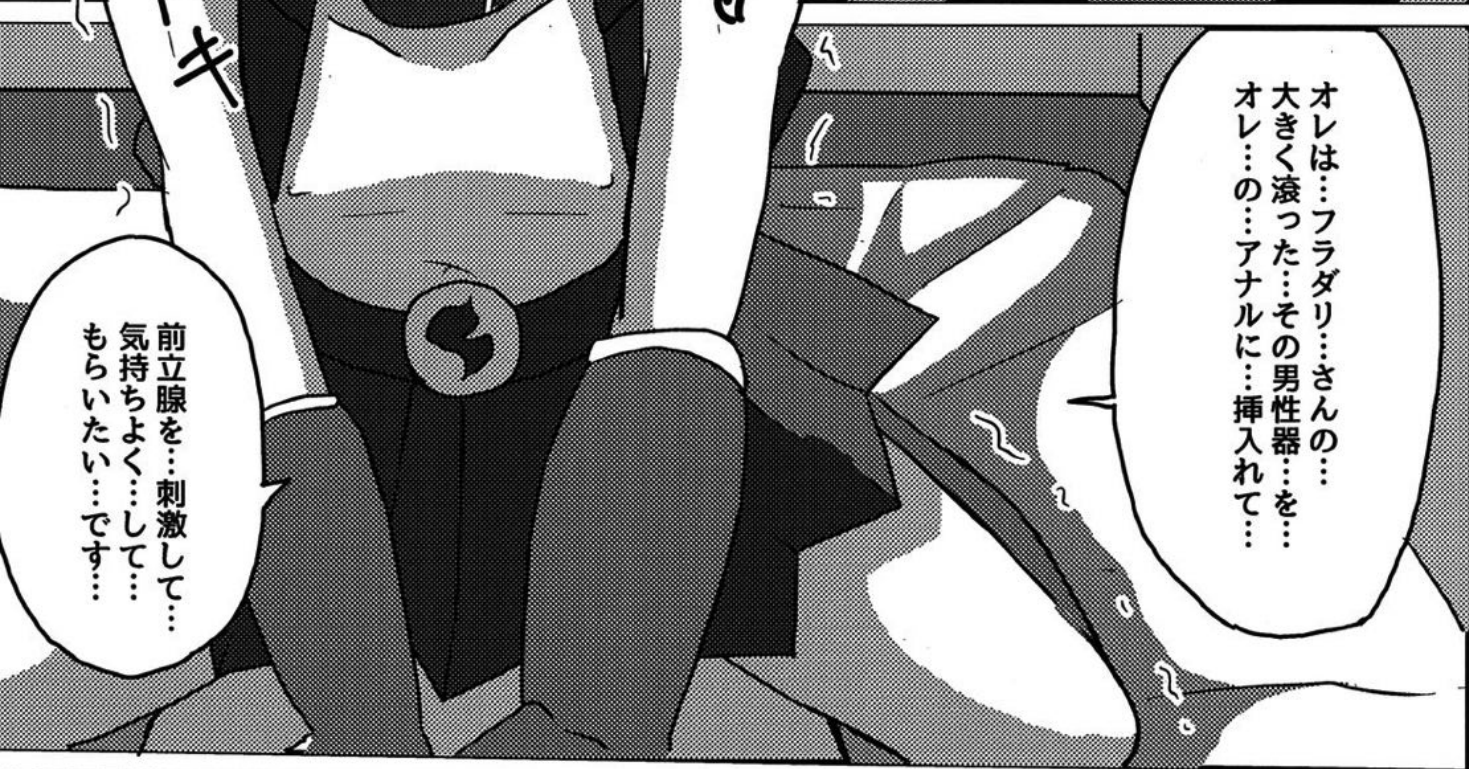


くっ



偉いぞ  
はじめの時は吐いてしまったが  
今日はちゃんと教えた通りに  
飲み込んだな  
よし、褒美に  
気持ちよくして  
あげよう





中に出すぞサトシ君！  
しっかり受け止めたまえ！

はぁ  
はぁ

あつ…あつ…これっ…  
気持ちいいッ…あつ…

そうだ、サトシ君  
私のモノになったんだ  
これからも毎日気持ちよく  
してあげるよ

絆エネルギーは予想通り  
凄まじい力を発揮した  
一晩で世界は崩壊し、  
実に美しい世界となった

わたしはこの世界の統二者として  
わずかに残った人間をまとめ、  
美しい世界を築き上げていく



本当にこれでよかったのだろうか?

世界は作り直され、美しくなった

でも、何かが足りないのだ、  
そんな気がしてしまうのだ

わたしは前の世界に  
何かを期待していたのだろうか?

人間の汚いところばかりを見てきた  
人間は醜い、この世界に必要な  
だから消した

そして醜い人間のいない、  
わたしだけの世界を作った

果たして、本当にこれが  
わたしの求めた美しい世界  
なのだろうか?

答えは誰にもわからない

ただひとつ言えることは  
わたしはもう、引き返すことができな  
いところまで来てしまったのだ

しかしそれでも、  
わたしはこの新しくなった世界を  
サトシ君がいるこの世界を  
愛してみようと思う

それが今のわたしにできる、  
彼への贖罪になるのなら



この本をお手にとっていただきありがとうございます。  
アクアジェット☆こーすけです。

いろいろと思うところはあるんですが、少しだけ。(すこ…し…?)

元々フラダリは悪の人ではなく、善人で、人々のために尽くしてきました。  
でも、人間は身勝手だということに気づき、絶望し、闇堕ちしてしまいます。  
「最初は感謝するが、だんだんとそれが当たり前になってしまう。」  
人のために尽くしたはずがかえって仇になる、皮肉な話です。  
フラダリはきつと頭の中では自分が間違っているってわかっていたんじゃないかと思うんです。  
だから、誰かに止めてほしかったのではないかなど。  
でも、今更引き返せない…そんなところに現れたのがサトシという少年と、ゲッコウガです。  
伝説のポケモンですら抗えなかったメガ進化エネルギーを、  
ポケモンとの絆のチカラだけで打ち破ってしまう。  
それを目の当たりにし、フラダリはサトシに可能性を見たのではないかと思っています。  
だから、メガ進化エネルギーに打ち勝った時、笑顔になったのではないかなど。  
…勝手な妄想ですが。

そんなことを思いました。

長々とアニポケXYの感想を綴ってしまいましたがこんな感じです。

話は変わりますが

2016年のポケモン映画「ボルケニオンと機巧のマギアナ」みなさんご覧になっていますでしょうか。

序盤10分くらいサトシがひたすら地面にたたきつけられたり痛めつけられるという

大変うれしい内容となっています。

エレキフィールドとステルスロックの合わせ技とか、とても素晴らしい。

くろいまなざしはそこからヒントを得ました。

凌辱はいいぞ。まだの方、ぜひ見てください。

というわけでここまで読んでいただきありがとうございます。

無断転載はやったらダメですが、twitter等でこのシーンがよかった!とか、

ここがお気に入り!などの画像のアップはやってもOKです。

「アクアジェット☆こーすけ」って名前を入れてもらえると

気が向いたときにエゴサしてにやにやします。

間違えても公式側に見せたり、送りつけたりせず、

ポケモンの関係者の目には触れさせないようにお願いします。

2017.2/12 チャレ!10

サークル：ぺこ連盟

作者：アクアジェット☆こーすけ

twitter：Ko\_Suke\_poke

メール：pekorenmei@gmail.com

pixiv：827465

印刷所：サングループ様

